

(ご参考)

**マツダ株式会社**  
**2022年3月期 第1四半期 決算発表**  
**主な質疑応答**

**1. 第1四半期の実績を総括してほしい。**

2022年3月期第1四半期のグローバル販売台数は、半導体供給不足による減産影響がある中、グローバルで在庫コントロールを行いリーンで効率的なオペレーションに注力し、35万3千台と2020年3月期レベルまで回復しました。経済が回復し需要が急速に高まった米国・オーストラリアへの供給を優先し、両国では全需の回復を上回る好調な販売を継続しています。一方、日本・欧州等は供給を絞らざるを得ない中、旺盛な中古車需要への対応も含めて、販売回復に向けた取り組みを進めました。

連結売上高は8,034億円、営業利益は261億円、親会社株主に帰属する当期純利益は114億円となりました。2020年3月期第1四半期との比較では、半導体供給不足で生産が限られる中、出荷台数は約5万台減少、売上高は減収となりましたが、営業利益は191億円改善しています。これは、顧客体験重視の販売・サービスを通じた、実売価格向上やインセンティブ抑制の推進に加え、コロナ禍での学びも活かしながら、原価低減の強化、固定費抑制・効率化など、中期経営計画の主要施策を着実に実行した結果です。これまでの取り組みの成果として、損益分岐点台数は、前下半期以降、100万台レベル以下に低減しています。

**2. 米国好調の背景と、その持続性について教えてください。**

米国の第1四半期の販売台数は対前年73%増の10万6千台と、需要を上回る台数成長となりました。販売ネットワークの再編や地域ごとに最適化かつ自律したオペレーションの推進、競合力あるリースプログラムの提供や販社コンサルティングなどによる販売改革、クロスオーバー系車種の成長や高い商品評価を有効活用したマーケティング施策などによる、販売・商品面での両輪の相乗効果によって、前期、前々期から着実にシェア成長が出来ており、引き続き、現時点の販売モメンタムを維持できると見込んでいます。今後、競合他社の供給状況の改善に伴い、競争環境の激化が予測されますが、市場動向に合わせて、販売の質向上と台数成長の両立を目指していきます。

**3. 半導体供給不足の今後の影響について教えてください。**

通期では半導体供給は依然として不安定な状況です。お取引先さまと日々協議・調整をおこなっており、流動的な状況であるため、通期の生産影響約10万台、出荷影響約7万台の当初の前提は変更しておりません。引き続き、在庫/販売/生産の状況を週次で確認し、迅速に対応することで、販売と収益への影響の最小化を図っていきます。

**4. 第1四半期の業績が好調であるにもかかわらず、通期見通しを据え置いた理由は。**

第1四半期の実績は、半導体供給不足で生産が限られる中での効率的な在庫コントロールや、中期経営計画見直し方針に基づく取り組みにより、着実な進捗となりました。しかし、今後の市場動向や半導体供給及び、供給不足による半導体価格の値上げなどの影響、またコロナ再拡大や、豪雨など自然災害のリスクもあり、経営環境を慎重に見極めていく必要があることから、通期見通しを据え置きました。来期以降の本格的成長に向けて、今後も構造改革と着実な改善を継続していきます。

以上